

(済々黌高等) 学校 令和 4 年度 (2022 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
本黌建学の精神である三綱領を根幹とし、徳育・体育・知育の三育併進、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。生徒を育成するに当たっては
1 他者への思いやりを大切に、社会に貢献する生徒の育成
2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成
3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 社会に貢献できる生徒 (グローバルリーダー) の育成
(2) 生徒指導の充実
(3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底
(4) 学力の向上
(5) 進路指導の強化
(6) 学校全体への S G H の成果の普及推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、様々な教育活動の場で折に触れ意識させる。	3.4 A	「三綱領」の精神は、学校の教育活動や行事を通して浸透していくものである。今年度はコロナ禍においても、感染防止対策を講じながら通常に近い状態で教育活動や行事等が実施できたこともあり、昨年同様の高評価につながった。
	S G H 成果の学校全体への普及	グローバル人材の育成	総合的な探究の時間を中心に、探究活動に取り組む。	・各学年の企画に基づき、講演、研修、レポート作成に取り組み、成果を発表する。	3.3 A	・英語の校外研修や成果発表会を実施した。 ・3年間を見通した指導計画が必要。
	学校の活性化	学校行事の工夫と改善	生徒が活躍する機会を与え、魅力ある学校づくりを目指す。生徒と向き合う時間を確保する。	・運営委員会を定期的に実施し検討・協議の機会を確保する。 ・P D C A サイクルを機能させ年度内の改善に努める。	3.3 A	運営委員会を定期的に開催することができ、各部との連携もとれ、教育活動や学校行事等の円滑な運営につながった。年度末反省をもとに、次年度に向けて工夫改善に努めたい。
	職員の資質向上	校内研修の充実	校内研修を通じて職員の資質向上に取り組む。	・各部が立案し、当面の課題に対し学校全体で取り組む。	3.2 A	オンライン形式も活用しながら、適宜必要な研修を計画的に実施することができた。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	施設面での危険箇所への改修に迅速に対応する。	・定期的な全職員による安全点検を行い、報告・連絡・相談を確実に行う。	3.2 A	安全点検等で要望のあった修理等には迅速に対応できた。

学 校 経 営	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成に向けた言語活動の充実を推進するための授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。 各教科で言語活動の充実を図り、授業改善につなげる。 	3.0 A	各教科において、授業の要所に言語活動を取り入れ、論理的思考力・課題解決力の養成を行った。来年度も継続して行う。
	業務改善	職員の負担感軽減	I C Tの多様なツールを活用して校務のスリム化に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査やアンケート等の集計、会議等にI C Tを積極的に活用する。 	3.5 A	学校評価や授業アンケート、模試の点数入力等の際にフォームを活用することで業務負担を大幅に減らせた。学校行事や会議等にオンラインを活用することでコロナ禍でも教育活動が滞らせずに進めることができた。
	働き方改革	職員の健やかな心身の維持	職員の平均年休取得日数10日以上、長期休暇中の特休取得率を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> 休暇を取得しやすい雰囲気を作る。 学校閉庁日を4日間設定する。 	2.9 B	夏季特休取得率は86%で昨年より微減となったが、学校閉庁日を設けたことである程度職員のリフレッシュにつながったと思われる。時間外勤務時間は概ね減少傾向にある。年休取得日数も9.2日と昨年よりも1.1日増えている。今後も引き続き働き方改革の推進に努めていく。
学 力 向 上	基礎学力の充実	学習時間の確保	平日2時間以上の質の高い家庭学習時間を確保させる。	帰宅時間や睡眠時間等の生活習慣の見直しをさせる。家庭学習時間調査の結果を踏まえ個々に合った学習方法を考案し、主体的に学習に取り組めるよう指導する。	2.9 B	昨年度3.1から評価が下がっている。家庭学習時間調査結果の把握が学年や担任にとどまり、分析が不十分であったので、来年度は分析に力を入れ、生徒を主体的な学習に導く授業改善、週末課題等の工夫・精選を進める。
	分かる授業・考える授業の創造	教師の指導力の向上	生徒の学習意欲を高める指導を実践する。	教科会や公開授業を充実させることで生徒が主体的に考える授業を実践し、教材研究に努めて思考力や判断力を向上させる授業を実践する。授業評価アンケートを実施して生徒の実態・要望などを把握し、授業に活かす。必要に応じ、オンライン授業を実施する。	3.2 A	公開授業では、3年ぶりに保護者と他校の職員に来校していただいた。社会に開かれた学校を目指し、外部からの意見も取り入れ、授業改善に努めていく。授業評価アンケートの結果を速やかに集計・提供し、先生方の授業改善に活用していただけるようにする。オンライン授業を4月に2日間実施したが、昨年度よりもスムーズに行うことができた。

キャリア教育（進路指導）	生徒の進路目標の実現	生徒の進路意識高揚に向けた取組の実践	進学資料の提示だけでなくコロナ禍での講演会や大学出張講義などを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に刺激を与え、将来のキャリアを主体的に考え、自らの可能性にチャレンジする生徒を育む。 ・面接指導を充実させ、生徒を理解し、信頼関係の構築に努め、適切な進路指導に繋げる。 	3.4 A	職業別講演会や大学出張講義などは生徒たちの進路意識の向上に役立った。適宜、クラス担任や教科担任との面談を充実することができた。
		教師の教科指導力の向上	難関大入試に対応しうる教科指導力の向上のための教材研究の徹底および授業を魅力的に行うための準備を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会と連携し、指導力向上と指導法の継承に努める。 ・校内模試の更なる充実を図り、結果をその後の指導に活用する。 ・大学入試問題分析を積極的に行い自己研鑽を積む。 ・ICTの積極的な活用により、職員の授業力向上および生徒の学力向上を図る。 	3.4 A	各教科会を通じて入試問題の研究分析が十分できた。難関大の問題から発せられるメッセージを理解し、教科指導および進路指導につなげることができた。
		教師の進路指導力の向上	3年間の進路ストーリーを計画し、進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での進路に関する職員研修や学力検討会、進路検討会を充実させる。 	3.4 A	研修会や検討会から最新の進路情報や進学指導を充実させることができた。
生徒指導	濟々覺生としての矜持を持たせる指導	徳育の推進	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事等において協力し支え合う姿勢を養う。 ・教育相談部と連携し、いじめを未然に防ぐ取組を行う。 	3.2 A	機会を捉えモラルの向上を呼び掛け「心の教育」を大切にしているが、思いやりに欠ける言動も見られた。引き続き、他者を思いやる心の醸成を図る。
		基本的な生活習慣と自己規律の確立	時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で各学期に登校指導を実施する。 ・全職員共通理解のもと、一貫した指導を行う。 	3.5 A	各学期の登校指導は実施できた。服装・頭髪等は概ね良好であり、特に生徒・保護者の評価は高い。今後も全職員による一貫した指導を継続する。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守する指導を行うとともに、防犯意識を高める取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携し実技講習会を実施する。 ・生徒会活動を充実させ、二重ロック励行などの防犯意識を高める活動を促す。 	3.3 A	交通委員による二重ロック点検や、一時停止運動を実施した。1月末時点で、本校生の交通事故は昨年度の36件から11件減少し、25件だった。今後とも、生徒の安全意識を高めるとともに、交通事故後の対応を適切に行うよう徹底させる必要がある。

人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫と改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び職員に対し校外研修への参加を促す。 人権教育LHRや講演会を計画的に実施する。 	3.1 A	職員研修については「第3次とりまとめ」および性の多様性をテーマに実施した。また合理的配慮協力員を講師に招き、支援を必要とする生徒への対応について講演していただいた。人権教育LHRについては計画通り実施することができた。
		価値的・態度的側面からの取組	生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 面談週間を計画することで面談を充実させ、生徒が相談しやすい環境を作る。 生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 人権教育推進委員会を適宜実施する。 	3.4 A	<ul style="list-style-type: none"> 面談週間を1・2学期に実施し、担任だけではなく、副担任や授業担当者も面談を行い生徒理解に努めた。 生徒理解のための職員研修を2回実施した。生徒のみならず保護者もスクールカウンセラーとの面談がしやすいよう配慮し、活用いただいた。
	命を大切にすることを育む指導	教材の精選と職員の共通理解	関連する教科・領域等の学習を組み合わせることで単元を構成し、多様な指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 全学年において、計画的に指導を行う。 感想の集約等から指導を振り返り次の指導に繋げる。 	3.2 A	「自己肯定感アンケート」については、1・2年生は毎学期1回、また今年度から3年生も2学期当初に1回実施し、結果を踏まえて面談やカウンセリングにつなげることができた。またグループエンカウンターでは協働作業を通じて生徒同士の相互理解につなげた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ストレス対処教育のエンカウンターを実施する。 生徒会を中心とした啓発活動を行う。 いじめ防止対策委員会を毎学期行い、生徒の状況の把握と対応に努める。 	3.1 A	全校生徒を対象にいじめ予防授業を実施した。いじめ防止対策委員会では、スクールカウンセラーからの助言を受けて、いじめ事案の対応状況の検証をおこなった。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期発見・早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合には、いじめ防止基本方針に従い、被害・加害双方の生徒に速やかに対応し、指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ人権アンケートや心のアンケートにより実態把握と早期発見に努める。 いじめ防止対策委員会を開催し問題解決に努める。 情報を集約し、職員間の共通理解を図り、事後も指導を継続する。 	3.4 A	アンケート等で把握したいじめ事案には迅速かつ適切に対応することができた。今後も「学校いじめ防止基本方針」の周知徹底とともに、いじめを未然に防ぐ取組を教育相談部や各学年部と連携を密にしながら行う。

健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	生徒が自身の健康状態を把握、管理する力を育成し、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなどの感染症予防を徹底した生活を送れるよう指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察、生徒保健委員会による「保健だより」の発行や注意事項の掲示により、感染症予防を啓発する。 ・職員による生徒への注意喚起を行う。 ・ICTを活用した健康観察を実施する。 	3.4 A	クロームブックを活用し、生徒自ら行う健康観察の指導を行った。生徒保健委員会発行の保健だよりをとおして、生徒が自分の健康状態を把握・管理し、感染症予防を重点に健康な生活を送る力を育むことができた。
			生徒の心身の健康管理日常の健康観察を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の健康調査や、保健室来室状況から実態把握に努め、職員間で情報を共有し対応する。 ・SCやSSW、外部専門機関と連携し、対応する。 	3.3 A	心と体の健康に関する調査結果や保健室来室状況等から実態を把握し、職員間で情報を共有するとともに、SCやSSW等と連携し、生徒の心身の健康管理に努めた。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生検査及び毎学期の安全点検を実施する。 ・美化委員による校内環境の整備を行う。 	3.3 A	学校環境衛生検査では基準値を満たし、問題はなかった。日々の掃除を徹底するとともに各行事の場面では大掃除などを行った。学校全体の環境美化に対する意識向上に期待している。
図書館教育	読書習慣の形成	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により読書意欲を高め、図書館利用を促し、読書習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館便り」「麒麟児」などの発行や生徒委員会による広報活動を充実させる。 ・年2回「朝の読書」週間を実施する。 ・学期ごとに2、3回特別展示を行う。 	3.2 A	広報活動は例年以上に充実していた。朝読書もSHRの時間を確保してもらい実施した。残念ながら貸し出しは低調で過去最低の現状である。
	学習活動支援の充実	蔵書や設備の充実	資料の充実と環境整備をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい館内の展示を工夫する。 ・教科や各部との連携を図り必要な資料を収集する。 	3.3 A	季節の展示、教科とのコラボ展示は充実。仮校舎への通り道になる来年度は授業での利用や来館者、貸し出しの増加を期待したい。
保護者との連携	同心会（PTA）と学校の積極的な連携・協力	連携を深め、円滑な校務運営を行うための情報提供	保護者への頻繁な情報提供に努め、本校教育への理解と協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校及び同心会HPと会報「同心」を充実させるとともに、学校からの情報提供に一斉メールを活用する。 	3.2 A	新設された情報企画部と綿密な連携を図ったことで、HPの更新回数が増えたとともにその質が向上した。その結果、保護者の学校評価における該当項目に関する肯定的意見の割合が83%に上った。

保護者との連携	同心会（PTA）と学校の積極的な連携・協力	PTA活動の活性化	学校行事等への参加及び協力を促すと同時に、各種委員会活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の案内や協力要請等、適切かつ迅速に行う。 ・本覚創立140周年記念事業に関する準備を、同心会と連携して進める。 	3.2 A	コロナ禍の影響で行事への参加人数が制限される中、オンライン等も活用しながら、学校行事や委員会活動を実施することができた。記念事業に関しては、関係各位の御理解と御協力のもと、成功裏に終えることができた。
地域連携 （コミュニティスクールなど）	学校運営協議会（総合型）委員との連携・協力	連携を深化情報の共有	学校運営協議会委員と学校との情報共有に努め、理解と協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型コミュニティスクールの円滑な運用を図る。 ・地域と連携した行事や活動をできる限りを実施する。 	3.0 A	今年度は学校運営協議会を対面で開催することができた。現在もコロナ禍のため、他の活動等の連携が十分にできていないが、今後徐々に連携を深めていけるようにしたい。そして、情報共有と協力体制の構築を図りたい。

4 学校関係者評価

※文体の統一と敬語等の一部を省略・改変

- (1) 自己評価について
- ・全体的に学校評価は高い。ほとんどの項目が3点以上だった。そのなかで「基礎学力の充実」が3.0を切っていたのが気になる。
 - ・働き方改革は小中学校と同じ傾向なので、なかなか難しい課題だと思う。
 - ・小項目のほとんどがA評価というのは伝統の力であり、学校経営のすばらしさだと思う。さすが済々黌である。
 - ・B評価である働き方改革と基礎学力の充実については原因等を分析し、A評価に近づけてほしい。特に基礎学力の充実については、力を注いでほしい。
 - ・概ね高評価で職員の方々の努力が感じられる。気になったのが「働き方改革」の項目で、職員の方々の健やかな心身の維持なくしてより良い学校運営はできない。残業を少なくし有給休暇を取得しやすい職場環境作りの必要性を感じる。
 - ・職員の時間外勤務が減少傾向にあるということは評価できる。今後とも職員の皆様の負担軽減につながる取組をご検討願います。
 - ・3.0以上が「A」という基準が有るのだと思うが、3.0は4段階評価の上から2番目なので、「A」として高評価に分類してしまうのはいかがなものか。
 - ・すばらしい評価で、先生達の粘り強いご指導がうかがえる。
 - ・消費生活講座、外部講師を招いての実施など、生徒の将来を考えてあり、評価できる。
 - ・家庭学習時間が少ないように思う。
 - ・主体的・対話的で深い学びができる授業を目ざし、生徒たちが生き生きと学んでいるかどうか分かる評価項目があればよいと思う。
 - ・難関校への受験者が多いのには驚いた。我々の時代では、先生方の細かい指導はあまりなく、自力で勉強した。今の生徒達は幸せだと思う。
 - ・卒業後の進路について、高い志をもって努力している生徒が多くてすばらしいと思う。テレビ等でも紹介され、誇りに感じた。
 - ・各部において、成果と反省の分析がされている点は改善点である。
 - ・各部今年度の努力目標に向かってしっかりと取り組まれていると思う。
 - ・コロナ禍にあって各種の行事が開催されたことは良かったと思う。

(2) 次年度への課題・改善への方向性について

- ・三綱領をベースにした目標について今後とも継続した取組を行っていただければと思う。
- ・高校入試の倍率が若干減少していたので、濟々覺の魅力をさらに発信されることを望む。
- ・コロナ禍がここ3年間続いているので、授業改善もむずかしかったと思うが、やはり濟々覺であれば、主体的に学ぶ態度や思考力判断力の育成を目指す指導のあり方追究してほしいと思う。
- ・大学入学共通テストでも知識だけでなく思考力・判断力を問う問題が出題されている。日ごろからそのような授業を受けていないと大変難しく感じると思う。ぜひ濟々覺のアピール点として、生徒が主体的に学び、思考力判断力を身に付ける授業をあげてほしい。
- ・成績向上も大切であるが、生徒のコミュニケーション能力向上への対策も考えてほしい。
- ・防災関係がコロナで一部出来ていないようなので、次年度は実施に向けて取り組んでほしい。火災救急については、連絡いただければ出向し、アドバイスができると思う。
- ・地域として協力、お手伝いができるような事
 - ①交通委員会の活動について（交通指導員と「交通安全の町 黒髪」協力会員と共に）
 - ②防災について（防災士の資格を持ち、自治会長が増えていますので、防災・減災を共に）
 - ③留学生について（地域活動として異文化交流会をしています。）
 - ④幼児について（地域には児童委員もいるので、共に）
 - ⑤交通安全指導について（地域に指導員資格を持っていますので共に）等を共に活動できないか。
- ・自転車事故が多いという課題があげられているが、安全意識を高めるとともに具体的な対策や、4月からのヘルメット着用が努力義務について、その取扱いはどうしているのか。
- ・全ての部において、コロナ禍で大変困難な運営をされていたと思う。今後はwithコロナでの運営に変わっていくと思うので、各部の更なる成果を期待している。
- ・今後とも感染対策は必要だと思うが、少しずつコロナ前に戻っていくことを期待している。
- ・先生達の健康が心配である。

5 総合評価

職員による4段階での評価については、「働き方改革」と「基礎学力の充実」の2項目を除き、3点以上であった。この「働き方改革」と「基礎学力の充実」の2項目については、ともに評価の平均が2.9と最低であった。コロナ禍3年目を迎え、徐々に活動制限が緩和されていく状況下での感染防止対策も含めた業務への負担感の増加や、コロナ禍での生徒の家庭学習習慣の確立とその指導の徹底の難しさが影響していると考えられる。「働き方改革」については、評価の観点である「年休取得日数」や「夏季特別休暇取得率」を基準としているが、夏季休業中も課外授業や三者面談、個別指導、部活動指導等で十分に休暇の取得が進まなかったことが考えられる。職員の健やかな心身の維持なくしてより良い学校運営はできない。職員の時間外勤務が減少傾向にあるということは評価できるので、今後も残業を少なくし負担軽減につながる取組と有給を取得しやすい職場環境作りに努めたい。「基礎学力の充実」の評価の観点である「学習時間の確保」は、生徒の主体的な家庭学習への取組の割合を増やしていく必要がある。そのために授業と生徒の主体的な学習が結びつくように、1人1台端末をさらに活用しながら授業改善を継続して推進していかなくてはならない。全項目の評価平均は「3.2」であり、全体的に見ると概ね達成できていると判断できる。昨年に比べ評価が高かった「グローバル人材の育成」については、今年度は海外研修こそ実施できなかったものの、熊本大学と連携した講演会や熊本大学の留学生に夏季英語研修や、子飼商店街と連携した講演会やフィールド・ワークなどが実施でき、生徒にとっても有益だったことが影響したと考えられる。各部において成果と反省が分析されており、今年度の努力目標に向かってしっかりと取り組まれていた結果が評価につながったと考えられる。保護者や生徒からの評価については、すべての項目で3点以上の高評価であった。今年度の課題や反省を踏まえ、次年度の取組に活かしたい。

6 次年度への課題・改善方策

三綱領をベースにした目標について、今後も継続した取組を行っていく。また、今年度評価が低かった項目や評価が下がった項目は、各部でその対応について十分に検討した上で目標を設定し、具体的方策をもとに改善できるように取り組む。今後コロナ禍の規制が緩和されていくことに関連して、地域との連携をさらに深め、校外活動にも注力し、学校からの情報発信の強化し本覺の魅力を積極的にPRしていくとともに、学校行事や教育活動等の通常実施に向けた準備をすすめ、本覺の活性化につながる取組をしていきたい。